

本時のねらい

◎タブレットP Cを使用して、育てている野菜について見つけたことや、気づいたことを友だちと話すことができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ①「かんさつ名人への道クイズ」を行い、かんさつ名人に必要なスキルを確認する。
- ②発表ノートを活用して、メモを作ることができる。
- ③ペアでメモを確認し、分かりにくいところなどを質問しあう。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットP C ・SKY MENU Class 発表ノート
- ・オリジナル教材「かんさつ名人への道クイズ」…観察したい観点が五感のうち、どの器官にあてはまるかを考えられるようにしたものの。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○「かんさつ名人への道クイズ」を行う。 ・名人に必要なスキルを確認し、五感のうち、何を使うのかをグループに分けさせる。	・「かんさつ名人への道クイズ」では、児童一人ひとりが操作することで、既習の観察ポイントを再度確認できているか、把握する。また、一斉に前のスクリーンで共有する。
展開 (35分)	○めあてを確認する。 ・「やさいを見て、見つけたことや、気づいたことを友だちに話そう」 ○育てている野菜の観察メモを作成する。 ・発表ノートを使用して、写真を取り込み、見つけたことなどを、メモに記入していく。 ○ペアになり、メモの確認をする。 ・友だちのメモを聞いて、分からないところを質問する。	・観察する野菜の写真を見ながら作業をし、観察ポイントを再度確認する。 ・手書きモードで文字を入力し、メモを作成する。 ・発表ノートを見ながら質問し、分からないところを見直す。また、写真を見て一緒に考える。
まとめ (5分)	○本時の学習について、振り返る。 ・友だちのメモを見て、変更点などを聞いてみる。 ○次回の学習の確認をする。 ・今回作成したメモをもとに、観察文を作成することを伝える。	・一斉に前のスクリーンを使って共有する。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：「かんさつ名人への道クイズ」をしている場面



写真2：メモを作成している場面



写真3：友だちのメモを見て、分からないところを質問している場面

児童生徒の反応や変容

- ・「かんさつ名人への道クイズ」では、既習事項を一人ひとりが確認でき、クイズ感覚で楽しめるので、授業内容への導入につながった。
- ・友だちからメモの質問を受けた後、すぐにメモの修正ができたので、ペアで相談しながら内容を深めることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・「かんさつ名人への道クイズ」は、カードを動かすだけで誰でも簡単に取り組めるので、様々な授業に応用できる。また、児童の興味づけへの効果が高いと考える。
- ・教員が発表ノートの型を用意することで、児童は取り組みやすく、見やすいノートができる。